

2022 年の海洋観測による福島県沿岸の水温測定結果

福島県水産海洋研究センター 海洋漁業部

部門名 水産業—海洋生産—水温・塩分量

担当者 八巻大吾

I 新技術の解説

1 要旨

浮魚の漁況は、海況(水温)と密接な関係にあることが知られている。福島県では、観測定点を定め調査船により海洋観測を実施している(図 1)。この海洋観測は 1960 年以降毎月実施しており、観測結果は週に一度発行する漁海況速報や、国立研究開発法人水産研究・教育機構がまとめる海況予報等に用いられている。

今回、県調査船による海洋観測における東経 142 度以西 100m 深水温を用い、2022 年の福島県沿岸の海況の概略について整理した(表 1、図 2)。1~2 月は「平年並み」、3 月は「低め」、4~8 月は「平年並み」~「やや高め」、10~12 月は「高め」で推移した。10 月以降の高水温が、シラス漁期の持続に影響した可能性が考えられる。

- (1) 1~2 月は黒潮系暖水及び親潮系冷水の双方が福島県沿岸に波及し、「平年並み」となった。
- (2) 3 月は黒潮続流が福島県沿岸から遠ざかり、茨城県沖を東方に流れたことにより暖水波及が弱まった。それと同時に親潮系冷水が福島県海域に広く波及し、「低め」となった。
- (3) 4~8 月は福島県沿岸の沖側に黒潮系暖水が、岸側に親潮系冷水が波及したが、黒潮系暖水の強弱により「平年並み」~「やや高め」で推移した。
- (4) 10~12 月は、8 月まで沖合を流れていた黒潮続流が福島県沿岸に波及し、「高め」となった。富岡定線では「極めて高め」で推移した。特に 11 月には富岡沖距岸 30 海里(定点 T5)に黒潮続流が波及し、1979 年以來の強い接岸傾向となった。

2 期待される効果

- (1) 来遊資源を有効利用し、効率的な操業を支援するための資料となる。

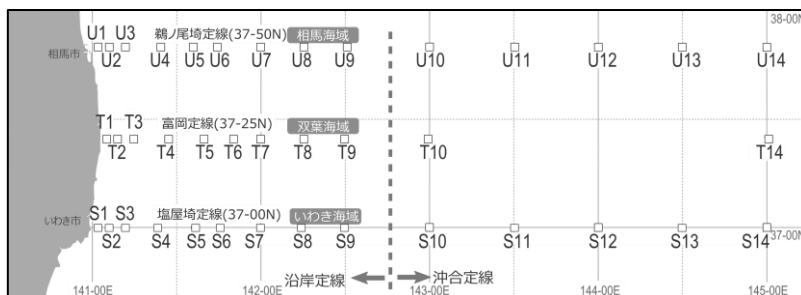
3 適用範囲

- (1) 研究機関、漁業関係者

4 普及上の留意点

- (1) 操業支援に向け、今後も詳細な海況の推移を把握する必要がある。

II 具体的データ等



東経 142 度以西で 100m 深
の観測を実施した定点
U5~7
T4~7
S3~7

図 1 海洋観測定線

表 1 海洋観測における 100m 深水温 (2022 年 50 海里以内)

定線\月	2022/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
観測値												
℃												
鵜ノ尾崎	9.6	8.6	3.4	6.8	7.6	10.1	10.2	11.6	-	12.7	17.8	17.3
富岡	11.1	8.3	4.3	5.5	7.2	10.3	9.3	10.4	-	17.1	20.4	18.5
塩屋崎	12.6	10.8	4.5	9.8	11.7	12.3	10.4	9.2	-	19.2	18.7	17.2
全体	11.1	9.4	4.2	7.6	11.7	11.0	10.0	10.3	-	16.6	19.0	17.6
年平均差												
℃												
鵜ノ尾崎	-0.8	0.7	-3.6	-0.2	0.0	1.6	0.2	1.0	-	0.0	3.4	3.0
富岡	0.1	-0.1	-3.8	-2.3	-1.5	1.2	-0.3	0.3	-	5.3	6.7	4.8
塩屋崎	1.1	1.7	-4.1	0.7	2.4	2.7	0.6	-1.5	-	6.7	4.2	2.8
全体	0.1	0.8	-3.9	-0.5	0.5	1.9	0.2	-0.2	-	4.2	4.7	3.5
鵜ノ尾崎	平年並み	平年並み	低め	平年並み	平年並み	やや高め	平年並み	平年並み	-	平年並み	高め	やや高め
富岡	平年並み	平年並み	低め	やや低め	やや低め	平年並み	平年並み	平年並み	-	極めて高め	極めて高め	高め
塩屋崎	平年並み	やや高め	低め	平年並み	やや高め	やや高め	平年並み	やや低め	-	極めて高め	高め	やや高め
全体	平年並み	平年並み	低め	平年並み	平年並み	やや高め	平年並み	平年並み	-	高め	高め	高め

※平年値は 1991~2020 年

極めて高め : +4.9℃ ~
 高め : +3.2℃ ~ +4.8℃
 やや高め : +1.3℃ ~ +3.1℃
 平年並み : -1.2℃ ~ +1.2℃
 やや低め : -3.1℃ ~ -1.3℃
 低め : -4.8℃ ~ -3.2℃
 極めて低め : ~ -4.9℃

2022 年 9 月は欠測

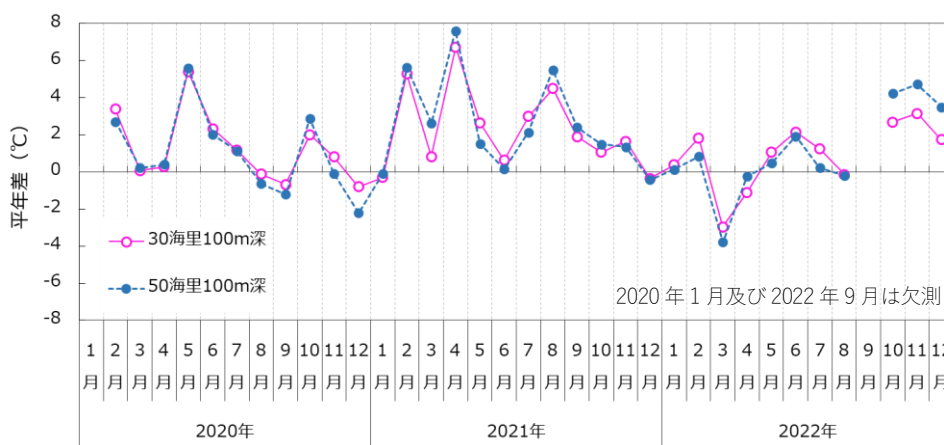


図 2 距岸 30、50 海里以内の水温平年差 (30 海里以内 : 各定線 1~5、50 海里以内 : 各定線 1~7)

III その他

1 執筆者

八巻大吾

2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和 3~7 年度
- (2) 研究課題名 海況予測技術に関する研究

3 主な参考文献・資料

- (1) 国立研究開発法人水産研究・教育機構 : 改良版我が国周辺の海況予測システム (FRA-ROMS II)